

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）



病原体：ムンプスウイルスが原因です。唾液などによる飛沫、接触感染をおこします。

潜伏期間：2～3週間。最も人にうつしやすいのは耳下腺が腫れる1～2日前から腫れた後5日間です。

患者年齢：多いのは4～5歳ですが、罹ったことがなければ大人でもうつります。



《症状》耳下腺（耳たぶのすぐ下）を痛がり、徐々に腫れ始めおおむね2日以内に最大になります。片方のことも両方のこともあり、顎下腺（あごの下）が腫れる人もいます。熱は38℃前後が多く、発熱しない人も約半数います。腫れは数日から10日、熱はせいぜい3日ほどで引きます。

《診断》特徴的な診察所見と周囲の流行状況から診断します。血液検査で判定する場合があります。

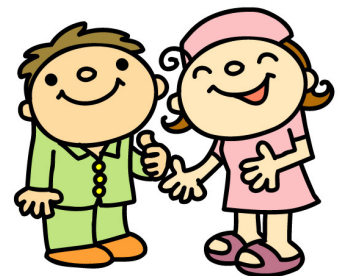
《治療》特効薬はありません。安静や栄養のほかは、解熱鎮痛剤などの対症療法が主になります。痛みには冷湿布も効果があります。

《予防》予防接種を打っておくと80～90%が予防できます。

《合併症》普通は予後の良い病気ですが、しばしば無菌性髄膜炎を起こします（2～10%）。ほかに難聴、精巣炎や卵巣炎、膵臓炎、心筋炎、関節炎、脳炎、血小板減少性紫斑病なども知られています。

※家庭での注意点※ ~ ~ ~ ~ ~

- ・ 特効薬はありません。なるべく栄養を摂らせて安静にしましょう。
- ・ 酸っぱいものや、よく噛まなくてはいけない食べ物は、痛みを強めるので避けましょう。食欲が落ちているようなら、おかゆやうどん、あるいはプリンやゼリーなど軟らかいものが良いでしょう。
- ・ 入浴は、ある程度熱が引いて、元気が出てきてからにしましょう。



「こんなときはもう一度診察を！」



- ・ 頭痛が強く、何度も吐く時（髄膜炎？）
- ・ その他、ふつうのおたふくかぜの経過（上に書かれているような）ではなくなってきたとき。

「学校・幼稚園・保育園は？」



- ・ 他のこどもにうつさないように、自宅で治るのを待ちます。
- ・ 1週間くらいして腫れが引いてから登校（登園）させますが、指定の証明書が必要な場合があります。幼稚園などに問い合わせてください。